

トップニュース



核兵器も戦争もない世界を求めて

日本原水爆被害者団体協議会 (日本被団協)
事務局長 木戸季市

ノーベル平和賞・日本被団協事務局長
木戸季市さんが龍谷大学生に語る

「終戦80年」の年を迎えた。戦争体験者は少なくなり、記憶の継承が極めて困難な時代となった。非戦・平和への願いを持ち続けるため、本紙では語り継ぐべきことを「終戦80年〜つなぐ」と題し、今号から掲載していく(不定期)。初回は宗門校の龍谷大学深草キャンパス(京都市伏見区)で1月9日に行われた、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の事務局長・木戸季市さん(85、宗門校・岐阜聖徳学園大学短期大学部名誉教授)の講演にスポットを当てた。木戸さんは若い世代に何を伝えたいのか、その様子をお届けする。



「終戦80年」の年を迎えた。戦争体験者は少なくなり、記憶の継承が極めて困難な時代となった。非戦・平和への願いを持ち続けるため、本紙では語り継ぐべきことを「終戦80年〜つなぐ」と題し、今号から掲載していく(不定期)。初回は宗門校の龍谷大学深草キャンパス(京都市伏見区)で1月9日に行われた、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の事務局長・木戸季市さん(85、宗門校・岐阜聖徳学園大学短期大学部名誉教授)の講演にスポットを当てた。木戸さんは若い世代に何を伝えたいのか、その様子をお届けする。



会場は学生など3500人を収容する大ホールに、核兵器をテーマにした展示が並べられていた。講演テーマは「核兵器も戦争もない世界を求めて」(写真左)。

「終戦80年」の年を迎えた。戦争体験者は少なくなり、記憶の継承が極めて困難な時代となった。非戦・平和への願いを持ち続けるため、本紙では語り継ぐべきことを「終戦80年〜つなぐ」と題し、今号から掲載していく(不定期)。初回は宗門校の龍谷大学深草キャンパス(京都市伏見区)で1月9日に行われた、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の事務局長・木戸季市さん(85、宗門校・岐阜聖徳学園大学短期大学部名誉教授)の講演にスポットを当てた。木戸さんは若い世代に何を伝えたいのか、その様子をお届けする。

「核兵器は人類と共存できない」

「核兵器は人類と共存できない」ということを確認した。人間に何をもちたかを明らかにするために、自らの被爆体験を語り始めた。5歳で被爆。長崎市生まれ、5歳の時、爆心地から2.5kmの場所まで被爆。その日(8月9日)は配給の日だった。母と一緒に配給を取りにいった。すると飛行機の音がした。配給が集まっていた女性が長崎弁で「おかしかね。アメリカの飛行機のことある。元気のよかもん」と。その飛行機を見上げた瞬間にヒカーッ。まさにヒカーッだった。20メートルほど飛ばされたと思う。あと1メートル飛ばされていたら水のない川に落ちて死んでいた。母と胸を離れて逃げた。母は顔にやけどを負った。翌日に知人の家に逃げるために移動したが、道路には死体があふれていたという。その後、母と看病する父を残し、子どもだけで鹿児島に逃げることに。しかし、

「自分の問題、として話し合って」

「自分の問題、として話し合って」。木戸さんは「核兵器から人類を守るために余生を捧げなくてはならない。私が生きているのは、核兵器をなくして人類を守ること」と強く語った。2007年から被団協の事務局長を務める木戸さんは、2023年11月にニューヨークの国連本部で開かれた核兵器禁止条約第2回締約国会議の中で、自らが発言した文章を読み上げた。

「私は、核戦争が起るとされるのではないかと、恐怖にかられています。核戦争の危機が高まっています。ウクライナとガザから伝えられる光景は被爆者にとってあの日の再来です。核戦争が起れば何もなくなってしまう。死の街、死の山、死の世界が残るだけです。広島・長崎に投下された原爆は「いのち」から「くらし」への被爆です。人間として死ぬことも、人間らしく生きることも許さなない絶滅だけを目的とした「狂気の兵器です。人間として認めることのできな絶対悪の兵器です。原爆投下によって世界は一変しました。原爆が人類を滅ぼすか、原爆を無くし人間が生き残るかの世界です。最後に学生に向かい、広島、長崎に原爆が落とされた何をもたらしたのか。命を奪い、かろうじて生きた人も原爆症などで今日まで病や死の恐怖と闘っている。核兵器をなくすことが人類を救うことになる」と、

終戦80年「つなぐ」情報集
戦争体験者がますます少なくなり、記憶の継承は極めて困難な時代となりました。非戦平和への強い思いで、今号から「終戦80年〜つなぐ」と題し、連載を始めました(不定期)。次回は、読者からの体験投稿の一部を掲載する予定です。
本紙では、戦争体験をはじめ、戦中・戦後の暮らし、現在の非戦平和への取り組みなど、幅広く情報を募っています。ご自身の体験談に限らず、ご家族や身近な方々にまつわる話題でもかまいません。本願寺新報まで情報をお寄せください。宛て先は7面に掲載する本願寺新報「読者のひろば」をご参照ください。

学生への問い
質疑応答の時間、教員を目指す学生が「これからの学校教育で何が必要か」と質問した。
木戸さんは「自分がどう思うか、相手はどう考えているのか、身近な人と話して話し合えばいい。『平和教育』というのがある。『平和教育』は『自分自身が平和』という考え方を人類が考え直すきっかけになる。『君たちも一緒に考えよう』。核の問題は被爆された方だけの問題ではなく、私たち一人一人の問題(講演を)ぜひとも若い学生たちに聞いてもらいたかった」と語った。(※次号に読者の体験投稿を掲載予定)

本願寺新報 hongwanji journal
3月1日(土曜日)
毎月1日・10日・20日発行
発行所 本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派(西本願寺) 千600-8501 本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代) / FAX075(341)7753
創業1400有余年の寺社建築技術
剛 金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル ☎ 0120-054-731

私たちのちかい
一、自分の殻に閉じこもることなく 穏やかな顔と優しい言葉を大切にします 微笑み語りかける仏さまのように
一、むさぼり、いかり、おろかさにならせず しなやかな心と振る舞いを心がけます 心安らかな仏さまのように
一、自分だけを大事にすることなく 人と喜びや悲しみを分かち合います 慈悲に満ちみちた仏さまのように
一、生かされていることに気づき 日々を精一杯つとめます 人びとの救いに尽くす仏さまのように

赤光 白光
頑なに融けようとしなかった雪のかたまりが陽ざしを浴びて姿を消していく。春の訪れも遠くない。古き友6人と久しぶりに食事会を持った。きっかけはそのうちの1人との電話。年齢をあらためて聞きあい、月日の速さに驚かされた。
▼互いの顔を見ながら話をしていると、何十年も前に共に学んでいたことが、まるで昨日のことのようによみがえってくる。それぞれが違う道を歩みながらも、今もこの娯楽世界にいる。こうして会えている不思議さを見ながら、貴重な時間を過ごした。人間は人との出会い、交わりによって成長していくもので、年齢に関係なく教えられることも多い。互いに刺激を受けながら、1人のことはあらためて考えさせられた。「学生時代、もう少し勉強しておけばよかった」。よく聞くことばだ。
▼人間誰しも過去を振り返り、「ああしとけばよかった」ということはある。仮に、過ぎた時間をやり直すことができたとして、充実した後悔しない時間を過ごせるかという、そうはいかない。前と同じことを繰り返してしまうように思う。だから、いつまでたっても後悔の念はとどまることはないのだろう。その思いを「今を大切に生きよう」とすることに転換していければと思う。切り替えである。
▼「未来をあてにするな、過去を振りかえることなかれ。そして、あるのは今だ」。大事にしたいのは「今」である。親鸞聖人は『教行信証』冒頭で「いま逢ふことを得たり」と「今」を強調されている。
福岡支局 千812-0002 福岡市博多区空港前3-9-16 善教寺内
電話 092(621)5163/FAX092(621)9400
購読料1部120円(年間4,080円) 定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派 代表電話 宗務所 075(371)5181 / 大谷本願寺 075(531)4171
宗派公式Webサイト https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ https://www.hongwanji.kyoto

八十四歳の親鸞
今井雅晴(宗門長老)
「西方指南抄」
84歳の親鸞聖人が4カ月の月日をかけて、師・法然聖人の法語や書状を集めた「西方指南抄」の書き取りを始めたのはなぜか。本書の内容を丹念に見つづつ、その理由を探る。
B6判・並製・112頁 1100円
B6判・並製・112頁 1100円
新刊 善導大師の「自信教人信」のおこころを仰ぐ
「帰三寶偈」のこころ
(歌)豊原大成 (解説)赤井智願 発行:間真会
(赤井智願)
ホームページ: https://jishosha.shop-pro.jp
【赤井智願 書き下ろしコラム配信中!!】
滋賀県大津市日吉4-3-7 電話:077-507-8209 FAX:077-507-9926

本願寺御香調進所
ほのかな香りを創って400余年
加羅・沈香・線香 匂い袋・虫よけ香
香老舗 董玉堂
〒600-8349
京都市下京区堀川通西本願寺前
TEL (075)371-0162
FAX (075)343-1459
創業文禄三年(1594年)

浄土真宗本願寺派 傷害・医療保険
あんのん医療保険
【加入対象者】 浄土真宗本願寺派の住職・僧侶・寺族・門徒およびその家族
病状やケガによる入院や手術等を幅広く補償。(天災によるケガも対象)
◆1日5,000円プランより ◆入院1日目より補償
★新規加入は満79歳まで、継続加入は満89歳まで拡大
介護・がんのリスクにも対応!!
介護特約 要介護2以上の認定、または保険会社所定の要介護状態が90日を超え継続した場合に、一時金で100~300万円を補償
がん特約 がん診断一時金 がん通院治療費用 にかかる特約もセット可能
この広告は掲載を要しないものです。詳しくは下記取扱代理店までお問い合わせください。引受保険会社損害保険ジャパン株式会社 SJE24-10332 (2024.11.14作成)
0120-37-0243
https://www.purani-hongwanjihahoken.com
株式会社プラニ
浄土真宗本願寺派提携代理店 株式会社プラニ
健康経営優良法人 認定

大乗 DAIJO 本日発売! 3月号
毎月1日発行/85判/80ページ
年間購読料 4,500円(税・送料込)
1冊 375円(税・送料込)
ご門主法話(御正忌報恩講)
門徒推進員の機関誌
「門徒推進員だより」No.66が合冊!
●DAIJO法話 …… 中川 大城
●御文章をいただく …… 満井 秀城
●みりのエッセー …… 藤澤 信照
●大乗 ほうわ・HOWA・法話 …… 佐藤 知水
その他コーナー多数!
本願寺出版社
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル(西本願寺)
https://hongwanji-shuppan.com/
0120-464-583 ☎ 075-341-7753